

授業科目(ナンバリング)	国家試験演習(社会) I (DC401)			担当教員	梅野潤子、裴孝承、中村尚生、山下彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習のねらいは、地域社会における幅広い生活課題に対応しうる、人間尊重を理念としたソーシャルワーカーになることを最終目標に据え、その前提となる社会福祉士の国家試験に向けて、専門知識を確実に定着させることにある。</p> <p>そのため、本演習では、国家試験問題等を用いてグループ学修に取り組み、確実に得点するための知識を身に着けることを目指す。また、確認テストを通して、各自の到達点と課題を認識し、それを自己学修に役立てることができるようにする。</p>							⑧⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	専門的な知識や技術の理解を深め、活用することができる。				確認テスト	60%	
情報収集、分析力	グループにおいて受講生が相互に教え合うために、必要な専門知識を収集・分析し、その成果をグループ学修において提供することができる。				グループ学修への貢献度	20%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	グループにおいて受講生が相互に教え合い、効果的な学修方法を検討・実践し、ともに確認テストへの得点につなげることができる。グループ学修で見出した自身の学修課題に対して学修計画を立て、主体的に国家試験の学修に取り組むことができる。				グループ学修への貢献度	10%	10%
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>確認テスト(60%)：第4回・第7回・第10回・第13回授業において、国家試験と同じ出題形式で行い、持ち込みは不可とする。出題数・範囲等は授業内で説明する。</p> <p>グループ学修への貢献度(30%)：配属されたグループにおける協働学修への貢献度を評価する。</p> <p>授業態度等(15%)：主体的に学修しているかを評価する。また随時、学修に関する面談や学修進捗状況アンケート等を実施する場合があるが、それに対する取り組み姿勢も評価の対象とする。</p> <p>フィードバック：基本的には授業中またはmanabaを用いてフィードバックしていくが、場合に応じて面談を実施する。</p>							
授業の概要							
<p>本演習では、社会福祉士の国家試験に合格するために共通に求められる知識と技術について学ぶ。具体的には、出題範囲や解法を学ぶために社会福祉士国家試験の専門科目7科目を範囲とし、配布資料をもとにグループ学修を行う。そして、グループ学修の成果を測るため、確認テストを4回実施する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：授業内で指示する</p> <p>参考書：医療情報科学研究所(2024)『社会福祉士国家試験のためのレビューブック』株式会社メディックメディア、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会(2024)『社会福祉士ワークブック』中央法規出版。</p> <p>指定図書：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟(2024)『社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規出版。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>社会福祉士国家試験予定者は、必ず履修すること。国家試験に合格するためには、学修習慣を身に付け、継続的に学修し、自律的に学修を行っていき強い意志と実行力が求められる。様々な学修方法を試したり、各種参考書を比較検討して自分に合ったものを選んだり、受講生同士で受験に関する情報交換を行ったり、教員に質問をしたりするなど、積極的かつ能動的な取り組みを期待する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	この授業の流れや、合格支援プログラム等に関する説明を行う。次週からのグループ学修のためのグループ編成を行う。(梅野)	予・復) 国家試験に合格する志を明確にする。
2	高齢者・児童 グループ学修①	「高齢者福祉」「児童・家庭福祉」の学修にグループで取り組む。(梅野・裊)	予) 模擬試験を熟読する。 復) 国試第 36 回の左記科目を解き直す。
3	高齢者・児童 グループ学修②	「高齢者福祉」「児童・家庭福祉」の学修にグループで取り組む。(梅野・裊)	予) 配布資料を熟読する。 復) 国試第 36 回の左記科目を解き直す。
4	高齢者・児童 確認テスト	「高齢者福祉」「児童・家庭福祉」の学修成果を、テストを通じて確認する。(裊)	予) 配布資料を熟読する。 復) 国試第 36 回の左記科目を解き直す。
5	貧困・基盤 (専門) グループ学修①	「貧困に対する支援」「ソーシャルワークの基盤と専門職 (専門)」の学修にグループで取り組む。(山下・裊)	予) 模擬試験を熟読する。 復) 国試第 36 回の左記科目を解き直す。
6	貧困・基盤 (専門) グループ学修②	「貧困に対する支援」「ソーシャルワークの基盤と専門職 (専門)」の学修にグループで取り組む。(山下・裊)	予) 5 科目の復習をする。 復) 確認テスト①を解き直す。
7	貧困・基盤 (専門) 確認テスト	「貧困に対する支援」「ソーシャルワークの基盤と専門職 (専門)」の学修成果を、テストを通じて確認する。(山下)	予) 配布資料を熟読する。 復) 国試第 36 回の左記科目を解き直す。
8	保健医療・経営 グループ学修①	「保健医療と福祉」「福祉サービスの組織と経営」の学修にグループで取り組む。(山下・中村)	予) 配布資料を熟読する。 復) 国試第 36 回の左記科目を解き直す。
9	保健医療・経営 グループ学修②	「保健医療と福祉」「福祉サービスの組織と経営」の学修にグループで取り組む。(山下・中村)	予) 配布資料を熟読する。 復) 国試第 36 回の左記科目を解き直す。
10	保健医療・経営 確認テスト	「保健医療と福祉」「福祉サービスの組織と経営」の学修成果を、テストを通じて確認する。(中村)	予) 配布資料を熟読する。 復) 国試第 36 回の左記科目を解き直す。
11	理論 (専門) グループ学修①	「ソーシャルワークの理論と方法 (専門)」の学修にグループで取り組む。(中村・梅野)	予) 4 科目の復習をする。 復) 確認テスト②を解き直す。
12	理論 (専門) グループ学修②	「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワークの理論と方法」の学修にグループで取り組む。(中村・梅野)	予) 配布資料を熟読する。 復) 国試第 36 回の左記科目を解き直す。
13	理論 (専門) 確認テスト	「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワークの理論と方法」の学修成果を、テストを通じて確認する。(中村)	予) 配布資料を熟読する。 復) 国試第 36 回の左記科目を解き直す。
14	グループ学修及び確認テストの振り返り	第 2 回～第 13 回までのグループ学修の成果を共有し、確認テストから見出された課題を整理する。(山下・裊)	予) 配布資料を熟読する。 復) 国試第 36 回の左記科目を解き直す。
15	夏休みの学修計画の作成 本授業のまとめ	第 14 回授業で見出した自身の課題点を踏まえ、夏休みの学修計画を各自で作成する。本授業のまとめを行う。(梅野・山下・裊)	予) 3 科目の復習をする。 復) 確認テスト③を解き直す。